



設楽ダムだより

第133号

大名倉地区
特集号

2021.10

大名倉を たずねて

大名倉橋



大名倉公会堂

大名倉地区の住民の皆さんのよりどころであり、閉区式が行われた場所でもあります。



昔

昭和21年から大名倉地区と他の地域をつなぎ、往来や交流を支えてきた大名倉橋。

今

上流側(写真右手)には重い工事車両を通すための仮橋をかけています。橋のためには工事関係者が打合せ中です。



今

建物は撤去されていますが、その基礎が残っていて、この場所に公会堂があったことをしのぶことができます。

寒狭川の風景



大名倉隧道

昔

導水のためにつくられた堰のあたりは、大名倉の子どもたちの夏の泳ぎ場でもありました。

昔

昭和23年に竣工した大名倉隧道。トンネル内部の素掘りの岩肌は往時のままです。



今

今年4月1日から一般車両は通行止めとなっていますが、工事関係車両が引き続き利用しています。写真の右手からは付替道路を建設するために寒狭川を渡る工事用道路が延伸中です。



今

今も堰が残っており、きれいな澄んだ水をたたえ、流れています。





大名倉の今昔

そしてダムのあるまちづくりに思いを寄せて

「大名倉」の名前を残し、伝えていきたい

元大名倉区長／設楽ダム対策協議会役員 伊藤 敏之いとう としゆきさんに聞く

大名倉地区



平成25年11月24日に大名倉公会堂で閉区式を行い、平成26年に移転を完了した大名倉地区。大名倉橋周辺では現在、付替県道瀬戸設楽線の工事が進行しています。その様子をご覧いただきながら、最後の区長として集落の移転を見届けた伊藤敏之さんに当時のこと、ダム建設にあたり望むことなどについて、お話を聞きました。

(インタビュアー…国土交通省設楽ダム工事事務所用地対策官…滝川孝)

変わりゆく大名倉の風景から集落の往時をしる

大名倉にはお墓があるので、お彼岸やお盆など、移転後も年に何度か訪れています。風景はかなり変わりましたが、瀬戸設楽橋の左岸には山がありました。瀬戸設楽線の工事が始まったため、もう面影がない



最後の区長として移転や補償にあたられた伊藤さん。落ち着いたお話しぶりの中にも故郷への愛着がうかがえるインタビューとなりました。



インタビュアーとは年齢が近いこともあり同じ目的に向かって共に歩んだ「同志」のような間柄。



学校から帰ってすぐに遊びに出かけたという寒狭川。大名倉は川の風景が美しいことも特徴です。大名倉の子どもたちは、夏にはこの水場で泳ぎを楽しみました。



くらい形が変わりました。大名倉といえば、茶畑と水田と林業の集落でした。今、「大名倉湿地」と書かれた新しい看板が立っているあたりは田んぼが広がっていました。お茶の木が少し残っているのも、大名倉の集落の名残です。大名倉橋から見下ろす川の風景は、当時のままです。この川では、物心ついたとき

から遊んでいました。学校から帰ったらすぐ川に行き、友釣りや引つ掛けでアユを釣ったり、捨て針を仕掛けてウナギを捕まえた。ここから少し下流に行ったら、田んぼに水を引き入れるための堰があった。夏はそこでよく泳いでいました。また山では、小屋を作ったり、蜂を獲ったり山芋を掘ったりして遊びました。普通に缶蹴りとかもしましたけど(笑)。蜂は炊き込みご飯にして食べると美味しく、このあたりではご馳走でした。

僕もよくやっていましたが、よそのうちに行くとコタツに入って寝たりするくらい、住民同士の距離が近かったんです(笑)。八橋や川向もそうだと思いますが、お互い親戚のような、気心の知れたコミュニティだったと思います。学校は小学校から高校までずっと田口だったのですが、学校の行き帰りにバスに乗っていると、ところどころに「ダム絶対反対」と書かれた看板があるのをよく目にしていました。その時は「あの看板は何だろ?」と思っていました。というのも、ダムの計画はあっても具体化していませんでした。親たちは反対のための活動をしてきたと思うんですが、子どもだった僕には実感がなかったというのが正直なところなんです。同じ世代の子が大名倉で3軒ありましたが、彼らと「これから僕たちどうなるのかな」と話すこともないくらいでした。ただ、父と代替わりして区の時きあいをするようになってからは、おのずとダムを自分たちの問題として考え、取り組むようになりました。

大名倉地区の最後の区長を務めて

最後の区長ということで、移転や補償に関して集落の皆さんや国土交通省さんと話し合いをさせていただきましたが、辛い苦





大名倉地区では、県道瀬戸設楽線の付替工事が本格化しています。写真の範囲だけでも4つの工事が同時進行しており、関係車両が何十台も停まっています。

- :大名倉湿地/ダム建設に伴う環境保全措置の一環として、湿地環境を整備しています。
- :現道瀬戸設楽線/令和3年4月1日より一部区間のルート変更を行っております。
- :付替県道瀬戸設楽線/橋の位置などは以下のとおりです。

- A : 1号橋 (仮称) / 橋長115mの金属製の橋
- Aa : 1号橋 (仮称) P2橋脚 / 高さ18.1m直径4mのコンクリート製橋脚*1 (写真外に高さ12m直径4mのP1橋脚*1もあります)
- Ab : 1号橋 (仮称) A2橋台*2
- B : 土工2工区 / 延長約50mの土工区間*3
- C : 2号橋 (仮称) / 橋長37.5mの金属製の橋
- Ca : 2号橋 (仮称) A1橋台*2
- Cb : 2号橋 (仮称) A2橋台*2
- D : 土工3工区 / 延長約640m (大名倉滝下~大名倉大洞付近) の土工区間*3

*1 橋脚: 橋の中間にあつて橋を支える支柱(脚)
 *2 橋台: 橋の両端にあつて橋を支える台状のもの
 *3 土工区間: 山を掘ったり、土を盛り固めたりして道路を作る区間

労したとか大変だったということは別段ありませんでした。ただ移転先についてはいろいろ協議しました。最初は集団で、大名倉みんなで行くという話もあったんですが、「やっぱり自分は息子のところへ」など、

住民の皆さんそれぞれが生活や将来のことを考えた結果、集団移転地以外を選択した方も多くいました。区長として、補償関係では公会堂や消防倉庫など区の共有財産についても、国土交

通省さんと協議しました。補償した後どうするかを考え、国土交通省さんに善処してもらうための相談や提案、助言をさせていただきます。集落の移転は平成24年にはほぼ終わっていましたが、区長として最後まで見届ける義務がありましたので、わが家は平成25年に契約、26年に田口に移転し、その9月から住み始めました。大名倉の集落では最後の移転者になります。

大名倉地区では ダムをどう受け入れていったのか

大名倉で全部移転が進んだのは、高齢化がすすんで進んでいくことがひとつの理由であつたことと否めません。大名倉の場合、年齢層に空間があつて、僕の世代から上となるとだいぶ離れた年代になりますので、皆さん集落の将来、自分の将来を考え合わせて、新しいところで再出発をしようと思つたのではないのでしょうか。

また、国土交通省さんから補償基準が示されたことも大きかつたと思います。それによつて現実に人生設計ができるようになり、それまで漠然としていた、今後の生活に関わるひとつひとつの問題を具体化できるよになりました。もちろんその中で不安もあつたと思いますが、僕も相談に乗つたり話を聴いたりしました。そうして一人ひとりが次の人生に踏み出していけることを確信して、決断に至つたのだと思います。

2軒ほどが少数残存者になるという課題もありましたが、その方たちの補償についても国土交通省さんと協議し、大名倉地区の全戸が移転することができました。

「大名倉」の名を せひとも残してもらいたい

移転先では周りの方があたたかく受け入れてくださったので、新しい土地で戸惑つたり不安になつたりすることがなかったのは幸いでした。僕は田んぼを納庫に持つていて、会社務めの傍ら農業も続けています。大名倉の移転がすべて終了して7年ほどになり、こうしてダムの建設が本格的に進むのを見るにつけても、やっぱりここに大名倉という集落があつたことが伝えられるように、「大名倉」という名前を残してほしいと思います。国土交通省さんにも、集

落みんなの総意としてお願いしています。例えば公園をつくるのであれば、そこに大名倉の名前を付けるというのも良いと思うんです。そこに立つたときに大名倉全体が見渡せて、故郷がどうなったのか見えるような公園になればなお良いですね。大名倉は設楽ダムの中心で、瀬戸設楽線があつて人に来てもらいやすい場所です。

八橋のウバヒガンザクラ、川向のしだれ桃のようなモニユメントが大名倉にはないので、ダムを契機に新しいモニユメントを創生して欲しいとも思います。紅葉とかどうでしょうか？大名倉の秋は、紅葉が色づいてとてもきれいですから。そういう地域の特徴も残して伝えられるといいなと思います。僕の4人の子どもたちにも時々大名倉に来て、紅葉を見て、大名倉に住んでいたことを思い出してくれたいと思っています。

11月3日にはお宮の祭礼があります。大名倉の皆さんが集う機会にもなっていますのでぜひおいでいただき、大名倉の今をご覧いただけたら、うれしいです。

あたたかく受け入れてくださった
大名倉地区の皆さん

平成24年から平成26年までの3年間、大名倉地区の用地補償を担当させていただきました。

私が担当して最初の大名倉地区での用地補償は、2件あった採石場の補償で、その後生活再建者の方々の家屋の用地補償を行いました。

伊藤さんには、公会堂や消防倉庫などの共有財産の補償や地区にあった神社（白鳥神社）の移築などにご協力をいただき、とても助かりました。

大名倉地区の住民の皆様が無事に移転ができたのも、伊藤さんが住民の皆様の相談に乗っていただいたことが大きかったとお話を伺って改めて思いました。

初めて大名倉を訪れた時から、地区の皆様にあたたかく受け入れていただきました。お陰様でその後もお互いに胸襟を開いてお話しすること



ができ、平成25年までに大名倉地区の全戸で契約をすることができました。

皆様のご協力があつて無事に移転がなされたということに改めて安堵感を覚えるとともに、感謝を申し上げます。

公務員としての責務の範囲内で
どこまで尽くせるか

用地交渉や補償の話し合いは、まず地権者の方に人として信用していただくことから始まりますので、私は補償の話始める前にちよつとした雑談をさせていただき、気持ちを和らげてからお話をするように心がけていました。

困っていることがあればお話を聞くなど、公務員の責務の中でどれだけ相手に対して尽くせるかを大事にしてきました。そういった人間関係の構築が用地補償の契約に結びつくと思うからです。

大名倉の元住民の皆さんの
思いに伝えたい

やはり故郷から移転するということは、住民の皆様にとって重大なことです。大名倉という名前を残したいという皆さんの思いに伝えたいと思っています。そして、「ここに住んでいたんだよ」ということがわかるように、何らかの形でご協力のお返しができたらと考えています。



国土交通省
設楽ダム工事事務所
用地対策官
滝川 孝

ダム情報

東三河広域連合議会みらい広域委員会委員が現地を視察されました

令和3年10月7日、東三河広域連合議会みらい広域委員会委員の方々が設楽ダム建設事業及び山村都市交流拠点施設建設予定地を視察されました。

令和3年7月に策定された山村都市交流拠点施設基本構想では、「水と森林の恩恵を絆とした上下流交流の推進ならびに東三河地域外からの人の流れの創出による設楽町及び東三河全体の地域振興への寄与を目的とし山村都市交流拠点施設を設置します」とされています。

ダム事業者としても、水源地である設楽町はもちろんのこと、東三河8市町村、東三河広域連合と連携して、東三河の持続的な発展につながる山村都市交流拠点施設となるよう協力してまいります。



東三河広域連合議会みらい広域委員会の現地視察の様子

設楽町の魅力再発見

奥三河郷土館の館長さんに【津具民俗資料館】と【文化資料展示センター】を案内していただきました。資料館には郷土史家夏目一平氏が集めた収蔵品(主に日常生活に利用されていた、見覚えがあるものから、これどう使うのだろう?というものまで様々)が展示されています。花祭に使用する鬼のお面も展示されていて、非常に迫力があり是非お祭りを現地で見てみたいなと思いました。

津具総合支所の近くに「欽ちゃん&香取慎吾の全日本仮装大賞」で受賞経験のあるチームTAKOさんのかかし作品(昭和32年11月第1回津具村村民体育大会)が飾ってあったため記念に1枚。さて私はどこにいますでしょうか!!



鮮やかな天狗さん。SNS映えしますよ

展示品の使い方を教えていただきました

国土交通省中部地方整備局 設楽ダム工事事務所

<https://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/>



新城庁舎

〒441-1341 新城市杉山字大東57

総務課 TEL (0536)23-4331 FAX (0536)23-4401

用地第一課 TEL (0536)23-4387 FAX (0536)23-4408

用地第二課

設楽庁舎

〒441-2301 北設楽郡設楽町田口字川原田1-2

工務課 TEL (0536)62-1290

調査課 TEL (0536)62-1292 FAX (0536)62-1291

工事課 TEL (0536)62-1293